

2月25日

新規プロジェクト始動



■早春の公園で

日曜日の朝は、決まって息子に起こされる。もう少し寝かせてほしいと頼んでも、聞きやしない。ベッドで軽いプロレスごっこをしてやるのが定番だ。身体を持ち上げると、いつになくずしりとした感触。本当に大きくなったな、こいつ。

カミさんが息子をリビングに連れて行くと、窓をいっぱいにかけて深呼吸をした。まだ肌寒いが、2月の空はどこまでも青く澄み渡っている。こんな日は、久しぶりに家族3人で近所の公園にでも出かけてのんびりするか。

朝食でそんな提案をしたら、カミさんは「お弁当を作るわね」と言いながら、さつそくキッチンに立った。冷蔵庫を開け閉めする音、包丁でまな板を叩く音、「あれも作らなきゃ」といったカミさんの独り言。目の前では、息子が小さなサッカーボールとじゃれ合っている。そんな日常



のなんでもない音や光景が、なぜか無性に嬉しかった。

自宅から歩いて10分足らずの公園には、毎年見事な花を咲かせる梅林がある。開花にはまだ早いとあって、人影は少なかった。紅白の蕾はようやく膨らみ始めたところで、ほころぶときをひっそりと待っていた。まもなく花が開いて、ひと足早い春の陽射しのなかで、ほのかに甘く爽やかな香りを放つだろう。

しばらく散策し、座り心地のよさそうな芝生を見つけて陣取った。